

若者の視点

尚絅大学生によるレポート 23

大津町議員との意見交換会を終えて

若者の政治への関心の薄さという状況の深刻さを感じた

1年 早田 静花

議員1人ひとりのお話はとても面白く感じました。三宮議員は、議会であだ一人の女性議員で、議会を傍聴した際に、男性ばかりの議会で、女性がいなかったことに疑問を持ち、議員になったそうです。時松議員は、まだ新人で元々は陸上自衛官でした。その後県庁へ入庁し、また議員になったそうです。大村さんが議員活動をしながら、実家の農家を手伝っているようで、議員には兼業が許されており、議員活動が可能な会社もあるということも知りました。

話し合いの中で、時松議員は私たち生徒に議会に興味をもち、議員になりたいと思ったかと質問されましたが、私は政治に関心が薄いのと、大変そうだからという理由で、なりたいたとは思いませんでした。しかし、それが議員のなり手不足や、無投票当選に繋がっていると分かった時は、自分も含めた若者の政治への関心の薄さという状況の深刻さを感じました。少しでも政治に興味をもてるように、今後議会傍聴してみても、私たちの生活に深く関わっている議会を身をもって体験したいと思います。



さる4月22日(木)に、尚絅大学九品寺キャンパスの新校舎にて大津町議会の広報委員4名と尚絅大学現代文化学部1年生の学生25名とで意見交換会を行いました。学生による生の感想をご紹介します。

自分の意見をもって政治に参加

1年 坂本 実菜

議員のみなさんのお話を聞いて、住民に寄り添う熱い思いや住民の意見を大切にしていることを知り、私も自分の意見を伝えてみたいと思いました。しかし私は今まで政治にそこまで関心をもっていなかったのも何も知らないし意見もっていません。そのために自分の町の広報を読んだり、議会を傍聴したり情報を集めることから始めるべきだと感じました。私は今18歳で1度投票したことがあります。その時は私なりに出馬されていた方の経歴や政策の方向性を調べたつもりでしたが、今回直接議員の方の話を聞いて足りていなかったと感じました。それは、その人が一番大切にしたいことや熱い思いは、直接話を聞くことで一番感じる事ができると分かったためです。自分の意見をもって政治に参加できる社会人になりたいと思いました。



議長ご挨拶

議員紹介

定例会レポート

委員会レポート

一般質問

大学生レポート

追跡レポート

住民の声